

仕様書

1. 件名

平成 29 年度放送大学学園視聴状況等調査

2. 調査の目的

放送大学学園（以下「学園」という。）における今後の放送メディア等の展開のあり方を検討する基礎的資料とするため、放送大学の学生における放送番組の視聴状況等の調査を目的とする。

3. 調査概要

(1) 調査方法

ネット調査（基本的に選択式。一部、記述式の問いとする。）

(2) 調査対象者

平成 29 年度第 2 学期に在籍し、科目登録を行っている放送大学の学生から、関東圏（茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都及び神奈川県）の学生と関東圏以外の学生とに分けて抽出したサンプルが対象

(3) 目標有効回収数

目標有効回収数は関東圏学生・関東圏以外学生共に 900 サンプル以上、合計 1,800 サンプル以上とし、請負者は目標有効回収数のサンプルが獲得できるよう、調査協力依頼数を 6,000 以上とすること。

(4) 調査項目

学園が調査で把握したい主な項目（仕様書別紙 1）を基に、請負者が調査項目（案）を作成し、学園と協議の上決定する。

4. 調査実施の条件

請負者は、本項に示す請負内容について、学園担当者の指示に従い履行すること。

(1) 調査材料の作成

- ア 調査協力依頼状（はがき）
- イ 謝礼送付用封筒
- ウ その他調査に必要な材料

(2) 調査対象の選定及び調査協力依頼状の発送

学園の提供する学生一覧から、年齢・性別・居住地を勘案して調査対象者を抽出し、依頼状の宛先・氏名の印刷等を実施すること。また、調査協力依頼状は、ネット調査用の ID・パスワードを印刷した圧着はがきとすること。

(3) 調査項目の選定

学園指定の調査項目について、ネット調査に関する知見に基づく助言を可能な限り行うこと。

(4) ネット調査の実施

指示した調査項目をネット調査できるように、サーバー等を準備し、ネット調査を実施すること。

(5) 調査協力依頼状の発送から回答までの対象学生へのサポート

調査協力依頼状の発送から回答締め切り後の適切な期間中、フリーダイヤル等の着信者課金番号を用いた問合せ窓口を設置し、対象学生からの問合せに対応すること。また、回答締め切り前に、はがきによる催促通知を調査対象の学生に送付すること。

(6) 調査協力謝礼の送付

ネット調査に回答した者（以下「調査協力者」という。）に対しては、額面 300 円の金券を進呈のこと。謝礼の提供時期は請負者の判断に委ねるが、辞退の申し出があった等の特別な理由を除き、調査協力者全員に進呈すること。

集計対象になった調査協力者に係る費用（謝礼品費（330 円／人）及び謝礼郵送費（82 円／人）については、実費を学園が負担することとし、調査完了後、当該費用を契約額に加算した金額を費用の内訳として記載したものに、発送先リスト等を添付して学園に請求すること。ただし、集計対象にならなかった調査協力者に係る当該費用については、請負者が負担すること。

(7) 調査結果の集計

調査結果の単純集計及び項目別クロス集計を行うこと。

なお、クロス集計の項目については、担当者の指示に従うこと。ただし、以下の内容のクロス集計は必ず実施すること。

- ア 性別・年齢別
- イ 関東圏・関東圏以外の学生別
- ウ 学生・大学院生別

上記アからウまでの集計に際しては、学生種別構成比・学生性年代構成比・学生居住地構成比等を用いたウェイトバック処理を行っての集計も含まれる。

調査結果において矛盾した回答があった場合は、必要に応じて学園担当者に確認し、適切な回答に修正すること。

(8) 調査結果の分析

調査結果の分析に際しては、上記集計内容を踏まえ調査対象者の属性別比較分析を行うこと。

(9) 納入成果物

ア GT (Grand Total) 集計表

自由記述式以外の回答について、実数、関東、関東以外、学生構成別ウェイト、地域別ウェイトにより集計した電子データ (Microsoft Excel フォーマット) 一式を納品すること。

イ 書込 GT

アの集計値を調査項目と共に記載した電子データ（PDF フォーマット）一式を納品すること。

ウ クロス集計表

上記（7）を取りまとめ、電子データ（Microsoft Excel フォーマット）一式を納品すること。その際、ローデータを添付すること。

エ 調査報告書

上記（7）及び（8）を取りまとめ、電子データ（Microsoft Excel フォーマット及び PDF フォーマット）一式及び印刷物（A4、グレースケール、150 ページ程度）40 部を納品すること。

オ フリーアンサー集

自由記述式の回答について、電子データ（Microsoft Excel フォーマット及び PDF フォーマット）一式を納品すること。

※アからオまでの電子データは、CD-R 等の電子媒体に保存したものを調査報告書と共に提出すること。各電子データは単一の電子媒体にまとめてもよいが、電子媒体に何が保存されているのかを明示すること。

(10) 個人情報の管理について

請負者は本件に関し知り得た個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じること。また、本調査終了時には、知り得た個人情報を適切に処分すること。

(11) 調査完了後の処理について

調査完了後から本年度末まで、本調査結果に関する詳細事項や関連する視 聴メディアによる最新の普及状況（世帯又は個人普及率）について、学園担当者からの問い合わせに応じること。

5. 再委託等について

- (1) 請負者は、本業務の全部を一括して第三者に請け負わせたり、再委託したりしてはならない。
- (2) 本業務の一部を第三者に請け負わせたり再委託する場合、請負者は、あらかじめ所定の事項について学園に申請した上で、承諾を得なければならない。

6. 納入期限

納入成果物	納入期限
4（9）ア GT 集計表	平成 30 年 3 月 2 日（金）
4（9）イ 書込 GT	
4（9）ウ クロス集計表	平成 30 年 3 月 9 日（金）
4（9）エ 調査報告書	平成 30 年 3 月 30 日（金）
4（9）オ フリーアンサー集	

7. 知的財産権等

成果物に関する権利は、学園に帰属するものとする。

8. その他

- (1) 請負者は、一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA)の正会員社であること。
- (2) 請負者は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会から、有効なプライバシーマークの付与認定を受けていること。
- (3) 請負者は、ネットを活用した調査の実施について、十分な実績があること。
- (4) 請負者は、過去5年間に、BSデジタル放送の利用状況・実態や視聴環境に関する調査の実績を有すること。
- (5) 請負者は、本業務に係る学園本部(千葉県千葉市美浜区若葉2-11)との打ち合わせに対応できる体制を整えておくこと。
- (6) 仕様書別紙2に示す審査用調査項目の作成要領に従って要件を満たす調査項目を作成し、入札書等と共に提出できること。
- (7) 本調査の実施及び集計の際には、仕様書に定める以外の事項については、学園担当者の指示に従うこと。
- (8) 業務遂行に当たっては、一般法令を遵守すること。
- (9) 成果物の作成に当たり、第三者が権利を有する著作物を使用する場合、必要な費用の負担及び使用許諾契約に関する一切の手続きは請負者が行うこと。

学園が視聴状況調査で把握したい主な項目

1. 「テレビ全般」の視聴方法について
2. 放送大学の「テレビの授業番組」について
3. 放送大学の「ラジオの授業番組」について
4. インターネット環境
5. 授業科目のインターネット配信及びIPサイマルラジオ（radiko.jp）配信等
6. 携帯端末等（スマートフォン等を含む。）の利用
7. ゆとりの期間、集中放送授業期間、データ放送及びマルチ編成
8. 印刷教材の電子書籍化
9. 学生本人に関する情報
10. その他

質問数は、合計で 50 問程度とする。

審査用調査項目の作成要領

1. 審査用調査項目の作成について

本紙を熟読の上、今回調査に必要な調査項目の一部（5問以上）を審査用調査項目として作成し、提出すること。

なお、参考として「平成28年度放送大学学園視聴状況調査」調査項目概要（抜粋）を添付する。

2. 応募にあたっての留意点

(1) 応募に必要な経費は、全て応募者の負担とする。

(2) 様式は適宜とする。

(3) 審査用調査項目は質問文及び回答で構成し、必要に応じて専門用語の補足説明を加えるなど放送システムに詳しくない学生でも分かりやすい内容にすること。

(4) 入札書等と一緒に提出すること。

3. 審査用調査項目の作成に当たって考慮すべき学生の視聴状況等

審査用調査項目の設問等の作成には、放送大学の学生システムや放送大学学園が実施している放送について一定の知識が必要であると考えられるため、放送大学での学習、放送形態等について、次のとおり要点を記す。

(1) 学習、放送形態

○放送大学の学生は、テレビとラジオで放送される授業番組を視聴し、かつ、印刷教材を使って学び、通信指導、学期末に実施される単位認定試験に合格し、単位を付与される。

○授業科目は、テレビ及びラジオを合わせ約350科目から学ぶことができる。

○放送大学のテレビ・ラジオ放送は、全国ではBSデジタル放送を、また、関東圏では地上デジタル放送及びFM放送を実施している。ただし、地上デジタル放送及びFMラジオ放送は、平成30年9月末で終了予定。

○放送を補完するサービスとして、学生向けインターネット配信（オンデマンド配信）やIPサイマルラジオ配信（radiko.jp）も実施している。また、一部の番組は学生以外でもインターネットを用いた視聴ができるよう公開している。

○都合により放送を視聴できなかった学生に、各都道府県にある学習センター等に備えられたDVD・CDで再視聴できるサービスを実施している。

○BSデジタル放送と地上デジタル放送では、デジタル放送の特性を活かしたマルチ編成のサービスを一部の時間帯（13:00-14:30と20:45-23:00）で実施している。

○BSデジタル放送を例にとると、放送大学のテレビ授業番組を放送している全ての時間において、BS231chで放送大学の授業番組を視聴可能である。また、マルチ編成実施時間帯では、BS231chに加え、BS232ch及びBS233chで別の番組を視聴することが可能である。

○放送大学では、デジタル放送の特性を活かしたサービスとして、マルチ編成のほかにデータ放送も実施している。また、特別講義の一部番組について、番組に関連した情報を伝える擬

似連動データ放送を実施している。

○一部のケーブルテレビ会社は、放送大学の放送を再放送している。

○ケーブルテレビ会社が再放送している放送大学の放送方式は、全国ではBSデジタル放送による放送、日本デジタル配信株式会社の番組配信サービス（i-HITS）による配信（ただし、平成30年3月末で終了予定）、関東圏では地上デジタル放送（FM放送）による放送のうち、いずれかである。

（2）その他

放送大学の授業番組をケーブルテレビで視聴する学生は、どの放送方式で視聴しているのか判別することが困難であることが想定されることから、受信形式による放送内容の違いやそれを確認するための機器の操作方法などの説明を加えるなどして、分かりやすい質問文及び回答を作成する必要がある。

「平成28年度放送大学学園視聴状況調査」調査票概要（抜粋）

設問の例	選択肢の例1	選択肢の例2
視聴可能なテレビ放送サービス	地上波放送	BS放送
BS放送視聴方法	アンテナから直接受信して視聴している	ケーブルテレビ経由で視聴している
所有しているBSデジタル放送受信機器	BS放送に対応しているテレビ	BS放送に対応している録画機
加入しているCATVの会社	J:COM	その他
テレビ授業番組の視聴状況	視聴している	視聴していない
テレビ授業番組_利用できる視聴方法	インターネット配信	地上波放送
テレビ授業番組_主に利用している視聴方法	インターネット配信	地上波放送
テレビ授業番組_CATVでの視聴時にあてはまる事柄	リモコンの「d」ボタンを押すとデータ放送を見ることができる	音声モードを副音声に切り替えるとラジオの授業番組を聴取できる
テレビ授業番組_CATV STBのチャンネル表示	121(地上波第1チャンネル)	231(BS放送第1チャンネル)
テレビ授業番組_視聴しない理由	印刷教材のみで学習しているから	「テレビの授業番組」の科目を受講していないから
テレビ授業番組視聴における利用しづらい放送サービス	地上波放送	BS放送
字幕番組の認知	知っている	知らない
字幕番組視聴時の字幕表示の有無	字幕を表示しながら視聴することが多い	放送大学の字幕番組を視聴したことがない
放送大学のデータ放送の認知	知っている	知らない
電子番組ガイド(EPG)への要望	講義の詳細な内容	講義内容のキーワードやジャンル
ラジオ授業番組の聴取状況	聴取している	聴取していない
ラジオ授業番組_利用できる聴取経路	学生向けラジオインターネット配信	学習センター・サテライトスペース・再視聴施設等
ラジオ授業番組_主に利用している聴取経路	学生向けラジオインターネット配信	学習センター・サテライトスペース・再視聴施設等
ラジオ授業番組_IPサイマルラジオで聴取する理由	スマートフォンやタブレット端末などで聴くことができるから	自宅外(移動中・外出先)でも聴取できるから
ラジオ授業番組聴取における利用しづらい放送サービス	FM放送	BS放送(ラジオ)
利用できるインターネット接続方法	光ファイバー(FTHH)	高速無線通信(LTE、WiMAX等)
ネット利用できる端末の有無	ネット利用可能端末あり	ネット利用可能端末なし
所有端末の種類	パソコン	スマートフォン、タブレット端末
ネット配信番組_視聴時に主に利用する機器	パソコン	スマートフォン、タブレット端末
IPサイマルラジオ配信の認知	確かに知っている	見たり、聞いたりしたような気がする
ラジオ授業番組_IPサイマルラジオ配信の認知&聴取経験	知っており、利用したことがある。	知っているが、利用したことはない
ゆとりの期間における放送番組の視聴状況	よく視聴している	ときどき視聴している
ゆとりの期間への要望・意見	特別講義やもう一度みたい名講義を多く放送してほしい	授業科目の内容を補足する番組を放送してほしい
集中放送授業期間における放送番組の視聴状況	よく視聴している	ときどき視聴している
マルチ編成番組の視聴頻度<放送授業期間>	よく視聴している	ときどき視聴している
マルチ編成番組の視聴頻度<ゆとりの期間>	よく視聴している	ときどき視聴している
マルチ編成番組の視聴頻度<集中放送授業期間>	よく視聴している	ときどき視聴している
一部の授業番組がHPで公開されていることの認知	知っており、視聴・聴取したことがある	知っているが、視聴・聴取したことはない
HP公開番組を視聴したタイミング	受講する科目を検討していたとき	放送大学への入学を検討していたとき
入学検討時に最も参考になりそうなHPでの授業公開形式	科目の全体像を示す番組1回分(45分)を公開する	科目の個別具体的な内容の一部を示す番組1回分(45分)を公開する
電子書籍利用状況	利用している	使用したことはあるが、現在は利用していない
電子書籍利用デバイス	タブレット端末	スマートフォン
教材が電子書籍化された場合の利用意向	印刷教材(紙媒体)と電子書籍の両方を利用する	印刷教材(紙媒体)だけを利用する
電子書籍の教材費がかかる場合の利用意向	負担額が発生しても印刷教材と電子書籍、両方を利用する	負担額が発生するのであれば、印刷教材(紙媒体)だけを利用する
テレビ授業番組の登録状況/平均登録科目数	登録している	登録していない
テレビ授業番組_登録科目数の分布	1科目	2科目
ラジオ授業番組の登録状況/平均登録科目数	登録している	登録していない
ラジオ授業番組_登録科目数の分布	1科目	2科目
放送授業の視聴・聴取に都合のよい時間帯	早朝～午前中5～8時	早朝～午前中8～12時